

「今を生きる」

(校長便り R2 NO. 2)

生徒の皆さん、お元気ですか？

4月も終わり、今日から5月が始まりました。生徒の皆さん、お元気ですか？規則正しい生活を送れていますか？気がつけば、4月初めの登校日以来もうすでに20日が経過しました。その間、課題の提出や英検の申し込みなどで学校に訪れた数名とは会うことができましたが、やはり生徒のいない学校は寂しいものです。

4月8日の始業式で二つの話をしたことを覚えていますか？一つは、これまでの何気ない日常に心から感謝してほしいということでした。不自由な生活を余儀なくされている今だからこそ、当たり前だと思っていたことが実は当たり前ではないということにぜひ気付いてください。もう一つは、校長便りのタイトルでもある「今を生きる」ということでした。人はともすれば、過去の失敗にくよくよしたり、将来に対して不安を抱きがちですが、大切なのは「今を懸命に生きる」ことです。このような状況下でも、今過ごしている一日一日が皆さんにとってかけがえのない日々であることに変わりはありません。そんな毎日感謝の心を持って懸命に生きることが、素晴らしい未来を築くことにつながるはずです。

校長室の窓から見える校舎の軒には、いくつものツバメの巣があります。今日も親鳥がせっせと餌を運んでいます。また、遠くに目をやると、新緑に輝く美しい山並みが見えます。コロナウィルス感染症の脅威に怯える我々人間に対して、自然の営みの崇高さにあらためて畏敬の念を抱きます。

むらさきの こゑを山辺に 夏燕 (飯田 蛇笏)



△ 校長室の窓から見えるツバメの巣



△ 生野高校正門から西を望む

令和2年5月1日

兵庫県立生野高等学校長 福田 孝善

